

授業の具体的展開例

俳句

「閑かさや岩にしみ入る蝉の声」

T : 音読

C : 音読

T : プリントの解説を読んでください。

C : ……。

T : ここで聞こえる蝉の声はどんな蝉でしょうか。今から、何種類かの蝉の声のCDを流しますので、イメージしてみてください。

アブラゼミ・ツクツクボウシ・ヒグラシ
ミンミンゼミ・クマゼミ などの鳴き声を流す。

T : さあ、どう思いますか。

C1 : アブラゼミかな。

T : なぜですか。

C1 : うーん……。

T : まず、俳句の言葉に注目してみてください。蝉の声を考えるとき、皆さんは、どの言葉に注目しましたか。

C1 : 「閑かさ」です。

T : どうして？

C1 : まわりが閑かなところに、一匹が鳴いているのがいい感じだ。

立石寺の写真をいくつか見せる。

T : これは、山形県の立石寺の写真です。岩山のうえにいくつかの祠が建っているのが分かりますか。写真も手がかりに考えてみてください。

C2 : 私は、ヒグラシです。ヒグラシは夕方に鳴くので、日が沈みかけた時間に、「岩にしみ入る」言葉がぴったりくるからです。

T : 人によってイメージは違うようですね。でも、大切なのは俳句の言葉がもつイメージを大切にすることです。言葉を大切にしながら何度も読むことで、深まっていく情景のイメージを広げてくださいね。

「活用」の力を育てる工夫

「芭蕉の俳句」を通し、自然美に対する感性を養い、それを表現させる工夫

- 五感に訴えかける。
 - ・ CDなどを活用し、聴覚からイメージさせる。
 - ・ 写真などを活用し、視覚からイメージさせる。
 - ・ 音読させ、俳句のリズムからイメージさせる。
- 作者、作品全体、時代、場所、季節、天候などの作品の背景からイメージをふくらませる。
- 言葉に着目させ、言葉がもつイメージを大切にさせる。
- 感じたイメージを鑑賞文にさせる。その際、自分の思いを伝えるだけでなく、根拠となる言葉や背景などを、必ず書かせるように指導する。
- 鑑賞文を発表し合い、他者のものの見方考え方、また表現の仕方を、自分の作品に取り入れさせる。

「活用」の力を育てる評価の視点

鑑賞文について

- ① 自分もったイメージについて根拠を明らかにしながら書いているか。
- ② 俳句の言葉に着目しているか。
- ③ 伝える相手を意識して使う言葉を選んだり、表現の工夫をしたりしているか。
- ③ 他者の視点を取り入れ、自分の考えを広げているか。
- ④ 条件に従って書いているか。
字数や、使う言葉、ポイントとなる俳句の表現など、条件を与えて書かせることで、「書く能力」を育成することが大切である。

HOME

本時の流れへ

評価問題へ